

第2次 猿沢地域まちづくり計画



～まちづくりの理念～

『豊かな環境を守り、みんなの生きがいを生み出す活力ある地域を創る』

令和4年4月

猿沢地域まちづくり協議会

猿沢地域まちづくり計画

1 地域の特徴、課題

（地理）

猿沢地域は、村上市の西部に位置し、北は男川沿いに塩野町地域と、東は高根川沿いに高根地域、三面川沿いに館腰地域と接し、西は、北から南西方向に伸びる山稜で旧村上市と接しています。地域のほぼ中央を縦貫する国道7号沿いに宮ノ下、下中島、鶉渡路、上野、猿沢、桧原、板屋越の7集落、県道村上朝日線沿いに寺尾集落、県道小揚猿沢線沿いに川端集落が点在しています。

（成り立ち）

明治22年に寺尾村、宮ノ下村、下中島村、鶉渡路村、上野村の合併により「鶉渡路村」、同じく川端村、猿沢村、桧原村、板屋越村が合併して「猿沢村」が誕生しました。明治34年に両村が合併して誕生したのが、本地域の母体となる「猿沢村」です。その後は、昭和29年に館腰村、三面村、高根村、塩野町村と合併し「朝日村」、平成20年に村上市、荒川町、神林村、山北町と合併して現在の「村上市」に至ります。

（産業）

本地域の基幹産業は稲作を中心とした農業であり、古くから地域経済社会の先導的役割を担うとともに、多様な価値観の創出や独自の文化・風土の形成に大きな影響を与えてきました。近年は、農業者の高齢化や担い手不足が進行しており、集落営農等による環境保全型農業への転換期を迎えています。

（観光）

猿沢集落の東、国道7号沿いには、市が運営する観光施設「みどりの里」があります。昭和60年の物産会館・食堂の建設を皮切りに温泉、屋根付き多目的ドーム、シルクフラワー工房、体験交流施設、宿泊施設、プール、農産物直売所など、多種多様な施設が整備されてきました。平成23年3月には日本海沿岸東北自動車道「朝日まほろばIC」が完成し、その先の延伸工事も進められており、敷地内には「道の駅」も併設されていることから、今後、さらなる都市との交流、地域情報の発信拠点として期待をしています。

（交通）

鉄道が整備されていない本地域においては、国道7号が交通の中心であり、自家用車や路線バスでの移動が主な交通手段です。しかし、路線バスの運行本数は年々減少しており、不便に感じている住民もいるのではないのでしょうか。

（人口）

人口は、昭和 30 年頃をピークに減少の一途を辿っており、少子高齢化が深刻化しています。人口減少は、空き家の増加、農地や山林の荒廃、地域扶助体制の衰退、産業や地域文化の担い手不足などが影響として挙げられます。

（地域の課題と組織づくり）

市町村合併により、行政の能力向上や効率的な運営が図られるようになった半面で、市民と行政の距離が遠くなったという声も聞かれます。また、地域づくりに対する市民の要望が多様化・高度化しており、行政の公正公平に基づく画一的なやり方では対応できない、地域資源を活かしきれない可能性があります。少子高齢化、集落活動の停滞などがささやかれる今、互いを支え、支えられる共通の目的意識を持ち、集える場として、「地域の元気づくり」に繋げることを目指すために、既存の仕組みや組織を見直し、行政と市民（地域）の役割分担の明確化を行い、市民（地域）が能力を発揮できる「元気なまちづくり」の仕組みを作っていく必要があります。

このような考えに基づき、地域コミュニティの核となっている、集落の取り組みを補完し、相互の連携や各種団体などが連携しあえる場として平成 24 年度より「猿沢地域まちづくり協議会」を組織し、猿沢地区の魅力の情報発信、集落活動の支援、賑いや一体感を生み出すイベント開催、あいさつ励行、ボランティアの活性化、郷土食など地域資源を活かした取り組み、農業体験イベント開催、歴史文化の伝承、地域美化活動など、多岐にわたる活動を展開していますが、協議会発足から 10 年経過し、保育園や小学校が統合したなかで、協議会の取組の見直しをかけながら、より地域と時代に求められる活動を展開していく必要があります。

2 まちづくりの理念、将来像（目標年度：8年度）

猿沢地域では、地域と行政がお互いに知恵を出し合い、地域の資源などを活用して、地域の元気づくりと活力を高めるために、まちづくりの理念と将来像を決定しました。

（理念）

『豊かな環境を守り、みんなの生きがいを生み出す活力ある地域を創る』を理念に掲げ、3つの将来像を達成するため、住民と行政が一体となり魅力ある地域を目指します。






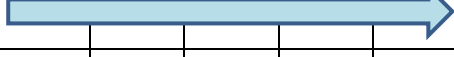


（将来像）

- 住民の集える場所があり、にぎわいと生きがいが生まれている
- 住民同士の互いに支えあう仕組みが構築され、心身ともに健全な生活が営まれている
- 地域の歴史文化、美しい景観が守られ、多くの人で賑わっている

3 具体的な取組みの方向性、実施事業等（計画年度：4年度～8年度）

基本方針	取組みの方向性や実施する事業
まちづくりへの関心と地域の歴史や伝統文化の継承の推進をする	地域をピーアールする情報発信をする
	地域・他団体・小学校等との連携や支援を推進する
	人材育成の推進を図る
住民同士が支え合い、安全安心に暮らせる地域をつくる	住民同士が支え合い、安心して暮らせる仕組みを推進する
	課題解決のための地域支援を図る
	地域の景観整備を推進する
地域の特産を活かした体験を通じ、住民同士の交流や地域外との交流を深め関係人口の増加を図る	住民交流のための事業を支援・推進をする
	他地域との交流を図り関係人口の増加を図る
	地域特産を活かした体験や交流を推進する

4 事業計画年度（実施年度：4年度～8年度）

基本方針	事業項目	重点実施	実施年度				
			4	5	6	7	8
まちづくりへの関心と地域の歴史や伝統文化の継承の推進をする	地域をピーアールする情報発信をする	●					
	地域・他団体・小学校等との連携や支援を推進する						
	人材育成の推進を図る						
住民同士が支え合い、安全安心に暮らせる地域をつくる	住民同士が支え合い、安心して暮らせる仕組みを推進する	●					
	課題解決のための地域支援を図る						
	地域の景観整備を推進する						
地域の特産を活かした体験を通じ、住民同士の交流や地域外との交流を深め関係人口の増加を図る	住民交流のための事業を支援・推進をする	●					
	他地域との交流を図り関係人口の増加を図る						
	地域特産を活かした体験や交流を推進する		